我園藝の將來

農學博士　原　熙

近藤さんからお話がございましたので、御參考になることは甚だ尠いと存じますけれども兎に角此處に揭げました演題に就て少しく申し上げたいと思ふのであります。

此の問題は頗る廣いのでありまして述ぶるところの部分も多方面に亘つて居つて、此の六時間で相當の結末を附けることは寧ろ困難であらうと思ひますけれども兎に角或る點々に就て若し御參考にならば仕合せと存じます。

園藝の定義

此の園藝と云ふことから少し申し上げて見たいと思ふのでありますけれども、御列座の方は園藝と云ふことに就てお學びになり又其方の書物をお讀みになつた方で園藝の定義に就ては既に御諒解になつて居ることゝ存じます、併しながら敢て之を申し上げたいと云ふのは今日園藝と云ふ事柄、又園藝と云ふ文字には或意味に於ては種々の仕事が含まれて居るのでありまして、吾々は此園藝の定義及び實質の如何なるものであるかと云ふことを餘程說明致しまして單り園藝界のみならず國民一般の諒解を得なければならぬと思ふ、故に聊か園藝と云ふ文字及び其範圍に就て說述致したいと思ひます。

園藝と云ふ文字は決して古くからあつたのでなく明治の初めと云ふよりも寧ろ明治十年以後に造られた字句である、併しながら今日園藝と申せば果物は無論の事、野菜、花も亦其中である、さうして庭の事も園藝と云ふものに解せられて居る、此の庭に至つては餘程昨今のことであります、久しきに亘つて慣用された園藝と云ふものは斯う云ふものも包含するものであると云ふことを國民總てに解せられて字は字、體は體で、文字には悉く當箝らぬが斯う云ふものも包含して居るので文字よりも實質の多く含ま

れて居る例は世間澤山あるのであります、園藝また然りであらうと思ふのであります。

一體字を作つた人に其精神を聞くことが出來れば宜しいのでありますが、此の園藝の文字を使つた人は唯今鹿兒島高等農林學校長の玉利博士が始めではなからうかと思ふのでありますが、內務省の勸業寮時代即ち明治十年にも書いて居つた故玉利さんの學生時代に既に此文字があつたので此の字を廣く使つたのは玉利博士で、尙其以前に作つた人があつたのではなからうか、遡つて見まするど田中芳男氏が勸業寮の主事者として働いて居られました時分に作られた文字でなからうかと思ひます、而して玉利博士が用ひられた最も初めの人と考へるのであります、其原字は Horticulture でホーティカルチュアなる字は英吉利で言ひまするど Gardening 園の栽培斯う云ふ意味が字に包含して居るのであります、園と云ふことは圍い即ち圍繞されて居る畑である。何故に圍繞するかと云ふと人間や家畜の襲撃から免るゝ爲の圍ひであつて實に大切なものである、花、果物、蔬菜或は庭木等栽培する以上は普通作物より叮嚀に之を保護したい、隨つも垣も高くし其の栽培も周到でなければならぬ、此の圍繞して作られたものが園藝作物である、圍繞すると云ふことに於て初めて園藝と云ふ文字がある、

園藝の四大別

そこで何う云ふ仕事が行はれたかと云ふと歐米の慣行と致しましては此の園藝を四大別にして居る、諸國總てに通じて居ると見て宜からうと思ふ。

一、果樹　二、蔬菜
三、花卉　四、造園（造庭）

第一が果樹、第二が蔬菜、第三が花卉、第四が庭造りである、造園若くは造庭と稱するものである、一は果樹の栽培、二は蔬菜の栽培、三は花卉の栽培及び其の利用である、右三者は利用或は裝飾である、果樹及蔬菜にあつては裝飾ではないが、花卉は裝飾である第四の造園に在りては人工によりて造り出されるものである、即ち美術である、美が籠つて居る、外國に於ては造園は園藝の一項目と見て居るのである、最近亞米利加に於ては園藝に從事する人々に依つて造園の書物が出版致されまして、逐年旺

になつて來たから從來歐羅巴に於ける造園は必ずしも園藝に從事した人々に依つて造られたものでなく、又建築家に依つて生れたものでもない、或は土木家に依つて造られたものでなく一種の造園家があつたのである、併し乍ら歷史的變遷を來たしまして唯今では造園の技術が優秀である所の佛蘭西に於ては園藝學校が設けられ學科目に造園が加へられて居る、歐米に於ては特殊の造園家と云ふ名前がある、即ちランドスケープ、ガードナー、庭を造るところの人である、專門業のやうな名稱であります、又佛蘭西に於きましても特殊の名前がありましてジャーダン、ペイサジスト或はジャーダン、アーチテクチユリストと云ふ、ジャーダンは庭と云ふ字でペイサジストは風景と云ふ、直譯すると風景園作造家即ち景趣を造る人、風景園を作る人である、或はジャーダン、アーチテクチユリストと云ふ名前を附けて居る何れも同じ事でありまして、唯ジャダーン即ち庭アーチテクチユリスト即ち建造物と云ふ意味でありまして種々の造營物を風景上造庭上作るものである、即ち美術的造庭者と云ふ意味である、古は建築家からジャーダン、アーチテクチエリストガ出來て居つた、今日に於ては園藝學校の學科目に加はり此の設計、計畫竝に實行と云ふものを掲げて居るのである、字から云へば造庭、造園は園藝の中の一項目であるべきだが今日我國では餘程混雜致して居ります、畢竟園藝家に於て造庭造園の方に着手されなかつたからであります、此頃我國の雜誌上等に於て論述されて居る次第である、元來造園と云ふことは其の材料として澤山のものが含まれて居る、家を建てるのは建築家の仕事である、銅像を建てる若くは石像を置くと云ふことは美術家若くは彫塑家の仕事である、又庭園を築造するに於ては多少土工に關係する諸種の仕事が含まれて居るのである、恰も農業に於て耕地整理が土木でありながら農業の中の仕事となつて居る如く園藝と稱する方にも種々の知識を必要とするのである。

今日は單り農業のみならず林業と云ふ側からも植物を扱ふ、此の林業に於ても森林の美を爲すものを森林美と云つて居る、尤も庭園美を賞するものもある、此の園藝の文字を解せずんば根本義を解するこ

ゐが出來ないものではないかと思ふのであります、我田引水ではないが園藝と云ふ文字、園藝の眞の意義を解するならば造庭術と云ふものは其人の心或は其人の趣味を現すものである、種々の方面から園藝の筋合を質して見まするとに蓋し此の造園は最も緣の近いもので園藝の中に含まるべきものであると云ひ得らるゝものであらうと思ひます、而して玆に言はなければならぬことは園藝は餘程妙な意味を有つて居る、昔の花造りと云ふのが今日轉じて園藝と云ふ意味になつて居る、「俺は年を取つたから花造りでも遣らう」所謂花造りになると云ふことは閑散の世に退いて居ると云ふ意味が含まれて居る、先づ相當な家の人であれば長閑に日を暮すと云ふ意味で花でも造らうぞよ、即ち菊を造るとか牽牛花を造ると云ふ事が今日園藝の名稱になつて居る、人間日常無ければならぬことが餘程閑却されて園藝と云ふ文字が誤り使はれて居るのである、花造りの如き或は庭樹の手入の如き或は庭の整理の如き是等娯樂にやつて居るものを即ち園藝と云つて居る、近頃は新聞雜誌等に家庭園藝と云つて猫の額のやうな所に野菜を造るのを園藝と云つて三坪か五坪の所に花を造り野菜を造つて居る、園藝と云ふものが娯樂の性質を帶びて居るものは甚だ遺憾な事である、娯樂もあり裝飾もあるが主として果樹蔬菜の栽培は實用的にやらねばならぬものであります。

園藝生産高

玆に多少統計上に包含して居るものに依つて論述致します、我國の園藝と云ふものは如何なる立場に居るものであるかと云ふことを見るに就きまして大正八年三月本邦農業要覽と云ふものが農商務省農務局より出て居ります、是れに由つて調べて見まするに果物、蔬菜、花卉類の反別が大約六十萬町歩ある、內果物が約十五萬町歩、蔬菜が約四十萬町歩である、此の面積の計算は如何になしてあるか恐らく推定だらうと存じます、御案內の如く蔬菜のみ作つて居るものはない、多く他の作物を混じて作つて居る、畑の反別の何割と云ふものはさうなつて居るから正確の數は得難いのである、然らば此の蔬菜畑の面積と云ふものは恐らく推定數だらうと思ひます、農商務省の調べでは六十萬町歩內外を示して居る、

兎に角相當大なる面積を有して居ると云はなければならぬと思ひます、而して此の果物の主なるものは柑橘、苹果、梨、柿、栗、梅、李、桃、葡萄等である、而も生産增加のものは苹果、葡萄、梨、桃等である、增減のないものは栗、柿、梅等である、蔬菜にありましては其の主なるものは大根、芋類、蠶豆、豌豆、佛掌薯、茄子、胡瓜、葱、葱頭、甘藍、即ちキャベツ等が著しい物であります、生産增加の著しいものは甘藍、葱頭であります、且南瓜、豌豆　西瓜等も現れて居ります。

又農商務省第三十五次統計の大正七年の園藝生産表によると果物の全國の生産額が五千二百五十九萬七千七百三十八圓即ち五千萬圓强であります、蔬菜が一億三千三百十四萬三百十九圓即ち一億圓强であります、花卉としては二十萬二千十七圓即ち二十萬圓强を示して居ります、但し此の花物は花百合だけでありまして他の花卉を含みませぬから此數はたよりないものでありますが此合計一億八千五百九十五萬百七十四圓即ち約二億圓と推定計上して居るのでありまして此の蔬菜の中馬齒薯、薩摩芋等の如きは普通作物にもあれば園藝作物にもありますが大畧其分野は定まつて居るのであります、先づ農商務省の計算に依ると日本の果樹、蔬菜、花卉の生産額は二億圓位のもので或は三億圓より上になつて居りはせぬかと思ふのであります、蓋し此の園藝統計と云ふものは農商務省の統計が具備されて居らぬので實に遺憾の極みであります、茲に申し上ぐる數は統計上に示して居るものであります、又同じ大正七年の園藝輸出統計を見まするに果物が二百四十八萬八千八百四十五圓即ち約二百五十萬圓、蔬菜が五千八百三十八萬一千八百九十六圓約六千萬圓である、此の約六千萬圓と云ふ數は御承知の歐羅巴戰爭の影響で、豌豆隱元其他の豆類が四千萬圓以上出ましたのでありますが、是は平常とまるで樣子が違つて居ります爲に斯る數を示したのであります、故に實際の數は平常の年に採擇すべきものである、花卉十三萬八千百四十圓是亦戰爭の影響で實に類なき少き額であります、歐洲戰爭以前の狀況から云へば十分の一位の數が現れて居ると云はなければならぬ、兎に角異例でありますが大正七年の輸出總額は六千十萬八千八十三圓と云ふものを示して居る、豆を引きますると罐詰を加へて大略五百萬圓內外のものでありま

す、今後の狀態から申しますと五百萬圓以上一千萬圓內外と推定して誤りなからうと思ふのであります、是等の物が何處へ多く行くかと申しまするに北米合衆國、英吉利、佛蘭西、加奈陀、埃及、比律賓、濠洲、香港、西伯利、關東州が主なものでありまして此外布哇、關東州以外の支那、新嘉坡、海峽殖民地等にも多少參ります、參りまする物の主なるは豆類で戰爭の影響はありましたが、主として英、米であります、葱頭の如きは大正七年の輸出數七十八萬圓約八十萬圓で比律賓が最も多い、次で滿洲、西伯利、香港、關東州等へいつて居ります、馬鈴薯は五十八萬圓約六十萬圓出て居ります、比律賓、香港、露領亞細亞等で中にも比律賓へ五十萬圓強出て居ります椎茸は二百三十萬圓出て居ります、主なるは香港で九十七萬七千圓約百萬圓其他支那、海峽殖民地等へ出て居るのであります、蔬菜が彼是四十二萬八千圓關東州へ十六萬圓以上、其外西伯利、支那等へ出て居ります、果物では蜜柑が關東州へ六十萬圓強、西伯利へ五十四萬圓強、其他加奈陀、支那等へ約百四十二萬圓強出て居ります、苹果は西伯利へ四十八萬圓許り、支那へ約十萬圓其他六十四萬八千圓、其他の果實が四十二萬圓許り出て居ります、是は露西亞の內西伯利方面、關東州等が主なるものであります、鑵詰の大正七年輸出額は主として蔬菜が多いのであります、漬物類が合計百十萬圓許り出て居ります、是は戰爭の影響によりまして北米合衆國へ十萬圓餘り出て居ります、其他關東州、支那、海峽殖民地等へ隨分輸出されて居る、又花物でありますが是は實に少いのでありまして、百合は戰爭前百萬圓近い數でありましたが大正七年には二萬四千圓しか出て居りませぬ、苗木類も支那や關東州其他に向つて十一萬參千圓しか出て居りませぬ。是から少し各論に入つて私の見る所を論述して見たいと思ひます。

果樹の將來

是より各論的に果樹の將來に就て申上げたいと思ひます、是は私の論述でありますから定めし貴卿方のお考へに合はぬ點も澤山あらうと思ひますが大に研究の餘地あることでありますから、私の愚考を開陳して園藝の將來と致しましての果樹園藝と云ふ方の側から申上げて置きたいと思ひます。

、我が果樹即ち果物は生產過多であるか否生產過多

でない、尚大に出し得らるべきものである、固より全體より見れば或物は餘つて居り或物は餘地がないが、概論すれば果樹は尚大に發展すべきものであると思ふのである、何うも生産過多と云ふことは生産者をして非常に萎縮せしむるものである、維持して居つたものを失ひ大に衰亡させるものである、多く作るよりも能く整理し少くとも集約にして行く方が利である、現に當岡山縣の或部分に就て縣農會、農事試驗場の御案内を受けました所は僅に八畝歩に長十郎を作つて居られる其收價は四百二十圓或は四百四十圓位取れる、果樹と云ふものは病虫害の豫防驅除に餘程努めねばならぬもので漫に多く作るよりも却て集約に作つた方が利があるものぢやと云ふことを能く證明されて居る、國の全體から見れば矢張反別の增加、又昨今旺になつたレモンなり栗なり、植物學上種々なるものが增加し其時代に適應したものが必要であると思ふ、概論すれば何うしても殖ねなければならぬ、何せなれば嘗て三十年代に苹果と云ふものは生産過多で非常に價が下つた、當業者は大變困憊したものである、此上作ることは相成らぬとの聲は朝野の間に旺に起つたのでありますが、ところが全體國民の果物に對する嗜好が進み又外國へ苹果が百萬圓内外輸出致し夫等の事で需要が增し景氣が餘程良くなつたので今日は決して苹果は實際上過産の狀態ではないのである、而も交通が開け生活狀態の高まるに隨ひ苹果の如き其他果物の需要は益々增加するのである、果樹の缺乏して居るものを作るとか、味を覺わさせて消費の習慣を附けさせたいものが澤山ある、喰はれなかつたものが大に喰はれる、苹果を食ふのは非常に贅澤に聞わた、明治八年十月に盛岡市から初めて苹果を送り出した時、斯麼氣味の惡い味のしたものは迚も喰へぬと云つて議論したことがあると池田謙三氏が物語られた、蕃茄の如きも初めは臭い〳〵と云つて居つたが了ひには弗々味を覺わて來る、吾々事業上の見地から見まして從來食べなかつたものも食べるやうになつたので決して心配するに及ばぬ、まだ〳〵作つて宜からうと思ひます、唯無暗に作つて病虫害の蕃殖をさせては相成らぬ、相當整理を遂げて注意を怠ることなくば、當局の統計から云ひましても今日果樹栽培反別から云ひましても尚大に增まして宜からうと思ふのであります、桃であれ、葡萄であれ、柿であれ、密柑であ

れ、李と云ふやうな數者、七八乃至十位の重要果樹は其國々の風土に適した範圍に於て作る、嗜好の高まるにつれて種類の選擇を一層嚴にして作ると云ふことが肝要であらうと思ひます、作るに就ても自から販賣の研究を行ひ府縣同業組合或は產業組合の如き機關に於て十分販賣方法を研究する等研究怠りなきに於ては大に生產して可なるものである、又海外へ販路を求めると云ふことも益々必要であると申したいのであります。

果樹栽培

茲に岡山縣の例を採つて申しますると本縣は桃に於て有名なる產地である、桃と云ふものも御承知の如く種類によつては遠くへ運ぶ事の出來ない實に保存力の薄いものである、上海水蜜桃の離核せぬものを先年本縣でお作りになつて失敗の有樣であつた、唯今では離核性の物をお作りになつて居る、之は栽培すべきものである、必ずしも種類を多くするには及ばぬ、少く共遠くへ送り得るものを栽培すべきものである、本縣の如きは優良なる產地であります、且其販路を御研究になり今一步數步進んで產額の增加をお圖りになることを望みます、岡山縣は日本の果樹園藝の上より見て確に必要なる場所に當つて居ると思ふのであります、栗の如きもさうであります是は平坦地に於て勸むべきものでないが本縣は中央山脈にも接して居るので大に栽培して收益を圖るのも餘程必要ぢやないかと思ひます、各部落各字總てに之をお作りなさいと云ふのではない、或處に依つては栗樹を植ゑ其實を取るは甚だ必要であらうと思ふ、既に御調査になつた方もありませうが山口縣の岩國在の中國山脈に近寄つた所には全國に著名な栗樹がある、岡山縣の狀態から申しまして此山嶽地の氣候の冷凉な場所に栗を植ゑて實を取ると云ふことも閑却してならぬ、寧ろ進んで適所に適種を植ゑると云ふお考へが必要である、栗は貯藏性に富んだものである、よく遠方に送ることが出來る、又需要力も最も一般に普及して居るのである、故に山嶽地を利用すると云ふことを御考へになるが必要である、又我國の果樹作物として確なものは梨である、是は殆ど說述を要せぬのである、我國の果物の價値は柑橘類を除いて兎に角第一番多くの產額を有して居るのは梨である、此の岡山縣の風土は梨に適して居る

將來今日の生産で以て決して安んずべきでない、進んで産額を増加すべき必要があると思ふ、岡山縣に於きましては洋梨に就て餘程栽培に練熟して居られ、昨今浦鹽等西伯利地方へ出て居るのでありますが尚一層販路に就て御研究を願ひたいと思ふ、現に茲にお出での小山さんの如き最も御丹精なお方であります、私は大原奨農會果樹園を拜見致しましたが良く出來て居るのであります、又洋梨は全國に於て岡山縣は有名なものであります、殊に洋梨は貯藏に困難なものでありますから、之を冷藏庫に於て貯藏する等の事を考へて需要に應ずるやうにせねばならぬ、洋梨栽培の困難は貯藏法にある、隨つて忽ち腐ると云ふので何うも販路上に懸念されるのは尤もの事である、併し今日の生産力は決して需要力と相對して居らない、まだ〳〵需要との差がある、寧ろ近年は大に求めて居る有樣である、近年生活狀態の進歩と云ひまするか嗜好力の向上と申しまするか洋梨の消費は餘程著しきものである、して見れば貯藏は困難にせよ搬出は難儀にせよ金を取るには相當の事をせねばならぬ、吾人は果樹園藝の將來として洋梨の販路と云ふ事に就て苦慮しなければならぬ、決して栽培は困難ではない、唯販路を考へて輸出の方法に注意を拂つたならば將來發展の趨勢にあるものと云ふことを申して置きたい。

次に李であります、是は貯藏に困難なものでございませぬけれども相當心附けなければならぬ、隨分栽培の仕易いものでありますから種類の上に注意を加へて之を作り今日以上産額を増加しなければならぬと思ふ。

次に葡萄であります、是は酒を釀すに止まらず生食を致します、今日主に作つて居ります種類では到底安んずることは出來ない、是等種類の改善を施し良き種類の物を植ゑて其販路を圖るならば決して需要の上に考慮を要しない、漸次需要の増すことは岡山縣のみならず世間に大にあらうと思ふのであります。

注意すべきレモン栽培

是から特に注意を要すべき果物に就て申します、之は岡山縣のみではございませぬ、岡山縣の或地方に限り局部的に當嵌ることが出來るであらうと考へますのはレモンであります、廣島縣の松永近傍に少

し許り植ゑて居ります、唯今我國の著名なる産地は廣島縣の下大崎、御手洗方面に稍纏つて出來ます、又西九州方面、四國の土佐方面の溫度の高い土地に於ては相當の物を收めて居ります、之を日本全體の生産の上から云へば實に百分の一とも千分の一、萬分の一とも稱すべきである、需要から供給を見れば實に寥々として振はないのであるから大に栽培する必要があると思ふ、此のレモンは如何なる用途を有つて居るかと云ふと御手洗邊では生で用ひ又は西洋料理に供せられて居ると云ふ事である、日本に於ては西洋料理が未だ一般國民の常食となつて居らぬ今日に於ける此の消費量から推して利益があるに違ひない、又夏季の飲料として大に消費されて居る、即ちシトロン、サイダー等お互に消費して居る是等は主としてレモンを使用して居るので此の量は甚だ多きを要するのである、現に東京の飲料會社の人が參りましてレモンの原料を買ひたいから何處か纏つた産地は無からうかと云つてレモンの生産の少いことを慨嘆して話されたことがある、然るに今日レモンの栽培に就ては柑橘栽培業者に於て重きを置いて居らぬ、全然閑却されて居るのであります、先年笠岡に於て柑橘の熱心なお方がアノ界限で一二本植ゑられた事がありましたがアノ邊の土地に適當せぬので十分保護を加へられたが冬痛がみ致した、それで餘程防寒の設備をせねばならぬ、けれども兒島灣方面の如き南を受けた溫暖な地方に於て部分的に植ゑたならば宜からうと思ひます、是は地方的問題で本縣のみならず我園藝の全體の上からお話し申すのであります、此の如くレモンは有望なものである、レモンの消費は頗る旺なもので其一滴を水に加へても結構である、而もレモンは決して西洋臭くない、アレを刻みまして山葵に混ぜる、或は酢のものや、刺身の添に附けるなど其味は非常に宜しいのである、又アレを絞りまして夏の顏拭きの手拭ひに一二滴たらすと非常に心持が宜しい、高松市の料理屋などではレモンをさう云ふ事にも使用して居ると云ふことである、東京大阪等の大都會に於ては早くから用ひて居る、又紅茶にも可なりであります、西洋人は寧ろ習慣でありませうけれども確に榮耀のやうでありますが、吾々が玉子酒と云ふと同樣、風引に玉子酒の熱燗を一杯やると同じやうに風邪拂ひに用ひます、私が彼方にゐた時下宿の女將がモレンを勸めて、レモ

ン砂糖をお飲みなさい發汗して良くきくアンチヘプリンも要らないと頓服藥として女將が勸めましたから飲みましたが確に效いた、葛根湯程には効かぬが多少效驗がある、外國人の信じて居る程日本人にはきかないかも知れぬが良い味のするだけでも仕合である、斯う云ふ樣に餘程用途を有つて居るのでありますからレモンの栽培は將來見込がある、殊に露亞西に於ては中產以上の人にあつては口中にミルクを入れなくてもレモンは入れなければならぬと云ふ習慣を有つて居る、是迄露西亞の方では小亞細亞地方の歐羅巴を通りまして汽車で西伯利方面をズット廻ると非常に高いレモンを喰べて居る、將來浦鹽、哈爾賓竝に關東州等に於て露西亞人は大にレモンを消費するものである、斯の如く國產として國民の消費する外に一面に於て輸出をして尙好評あるものと見て宜からう、植ゑて宜いものであると申し得らるゝのであります。

葡萄の硝子室栽培

次に葡萄の硝子室栽培でありますが、果物の問題を論及して見まするときに園藝は副業であるか專業であるかといふ問題に逢着するならば硝子室の栽培によりて專業であると云ふ事が證明さるべきものであると思ひます、諸君も御承知の如く岡山市附近の橫井に硝子室栽培をやつて居るし近年兩三度拜見したことがありますがアノ硝子室は最も簡易な方法で又最も僅少な經費でやつて居る、昨年の一番高値は一貫目四十二圓したと云ふ事で、此處にお出の縣農會技師のお話でございます、私は二十圓臺位に思うて居りましたが四十二圓したと云ふ事は洵に喜ぶべきことであると申した事でありました、之が本年に於て果して此の景氣で行けば贅澤な果物は價を維持するか何うか疑問でありますけれどさうは下るまいと思ふのであります、何故なれば手數が餘程要るからさう安く賣つては合はない、先年橫井村のお方が高くて十二圓と仰つたと記憶して居ります、今年如何に下つても十二圓になると云ふことはなからうと思ひます、今日の勞銀から割出して相當に賣行かうと思ひますが十二圓と云ふ事では引合はないのでありますが、又アレを火熱の方法に依つて促成するやうにしましたならば一層高價で賣れる事にならう思ひます、此方法に就て大阪府の河內方面に於て段々栽培

が進んで參りました、又京都府に於て山科村の白山菊太郎、木村太三郎是等の人々は餘程大きな規模で以て栽培に努めて居られます、又東海道方面は名古屋に近い所に段々設備を見るやうになりました、更に東京地方にも段々出來ました、就中千葉縣中川方面には數箇所に葡萄室が出來て居るのであります、今日では需要の方が遙に大でございまして供給の方が甚だ小である、高値を示して居るのに何故に供給側が競つて作らぬかと云ふと硝子がまだ高い又火熱方法にしても鐵が高い、石炭が高く設備及び管理法が困難でありますから今日のやうな高値を有つて居つても有り難くないのである、三十六圓四十圓甚だしきは四十二圓と云ふと聞くものは驚くでありませうが實は決して有り難くないのであります、葡萄栽培の價値を宣傳致しまして益々栽培し又需要家の熱望に隨つて値段を躍り上げ高くすることは供給者の利益である、漸次生活の狀態が進んで來て需要が多くなるのでありますが、物價も稍安定し硝子も木材も幾分下落して來たならば節約を加へて硝子室を作り之を供給すると云ふことは餘程必要であらうと思ふ、特に葡萄は相當貯藏を要するのであるから簡易なる貯藏室で以てよく一二ヶ月を保たしめるとか、貯藏して品の乏しくなつた頃即ち三四ヶ月に亘つて供給するやうにしたならば確に有利で將來打續いて行くもので餘程有望なものであらうと思ふのであります。

高等果物の需要

次には硝子室のメロン栽培であります、マクスメロン殊に英吉利甜瓜と申すものであります、是は秋作ると出來ぬことはないのであります、夏分即ち五月以降秋の初め所謂夏の期節に於てはメロンは出來ぬことがあります、何うも温熱の關係又管理が甘くありませぬと實際良き品物を産出せしむることは出來ない、折角出來ても味の無いものが出來る、故に先づ此のメロンは理想的のものを作り出すと云ふことになれば何うしても硝子室でやらねばならぬのであります、是に火熱の裝置をしなければならぬのであります、此のメロンなるものは近來非常に消費が高まつて來たのである、固より誰も彼も喰べるものでありませぬが、兎に角此の高價なるものを非常に喰べるやうになつて來たのであります、メロンは果

物の王であると言はれて居る、少し喰べ馴れた人はメロン〳〵と騒いで、高いものを喰つて居るのである、値は高いやうでありますけれども、高くすれば高くするだけ喰ひ附くのであります、今日は自動車に乗つて出掛けるものがメロンの味を知らざれば談ずべからずと云ふ有様であります、故に此メロンの消費は非常に旺になつて來たのでありまして茲に高等果物の必需品となつたのである、而も此栽培は困難でなく火熱法さへ完全であれば餘程樂であらうと思ふ、是などもおやりになつて宜しからうと思ふのであります、丁度メロンの大きさは約三百匁ありまして、是は昨年の事でありますが試驗場で作つたのは百目二圓五十錢であつた、民間で作つたのはモツと高く三圓から三圓二十錢します、三圓として一箇九圓と云ふことになります、之を八つか九つに切りますと一切が一圓と云ふことになつて可なり結構な價が致します少し高いのになると四圓五十錢する一箇十三圓五十錢で一切が一圓五十錢するのである、是等の物を喰ふお方もお出でになるのでありますから洵に仕合せで吾人は益々供給して行けば宜いのでありますが、唯設備上材料がまだ高いのでありますが、今少し緩和して來ましたならばメロンの供給は餘程好望なものであると考へます而して茲にも一つメロンの類で亞米利加メロンであります、俗に言ふマスクメロン、本邦ではカンタラウプと云つて居る、南瓜に能く似て居る、兵庫縣の鳴尾や西宮在で盛に作つて大阪市神戸市等へ供給されて居る、噂に依ると栽培は非常に仕易く日本の甜瓜より餘程良い味を持つて居る、到底日本の梨瓜や金甜瓜と違つて餘程甘い、是は兒島灣附近の如きに御作りになつたならばさまで難儀なものでございませぬからお作りになることは餘程必要だらうと思ひます、殊に硝子室栽培が宜い、地は濾土栽培若くは砂によつてやるが宜い、日本の甜瓜とかけ合せて良いものが出來ると一層宜からうと思ふのであります、外國に於ては無花果、桃李等も硝子室栽培をやつて居るのであります、外國の硝子室で栽培するものゝ内毛桃がある、毛のないものはすぼい桃と云ふ、園藝試驗場ではアーリーニユーイングトシ、ハンボルト等がある、多く是等の類を栽培して居るので品位も上等のものでありまして高い値段が取れます、是はまだ日本に於ては稱賛して呉れないがメロン及び葡萄に次で喰べさせるも

ので何れ之の釣針にかゝらうと思ふのであります。

今日に於ては一般に高等果物の需要は十分でないけれども栽培者側が努力し以て大に誘發せしむることが出來るのである、將來五年はた十年の間之を宣傳し又適當なるものを作ることにしたならば恐らく效を奏し得るものであらうと思ふのであります、竟り優良なものを作つて高く買はせるには何うしても硝子室栽培に見込がある、さう經驗なくしても將來大に利益を收むべき運命あるものと思ふのであります。

李も早く作り出す事が出來る、よく乾燥して居るならば栽培は容易である硝子室にてもよく温度を調節し濕氣の緩和は出來るのであります是も亦消費者が歡んで迎へることにならうと思ふのであります。

次には和蘭苺、即ちストロベリーであります、是は東京、大阪、京都等の大都市許りでなく他の都市にあつても餘程需要が進んで來たやうであります、本年の如き早作りの苺が三月半から四月に出て居りました、其種類の中でも福羽苺といふ促成用の苺がありまず、六匁から八匁位のものが出來るのであります、其福羽苺なるものは今日尚他の新種を作り出じて居る、隨分大きなもので我が園藝界に於て尊んで居る、就中味も良いのであります、其福羽苺に就て東京の或宴會に於て神戸の新金持が見て一箇一圓で百箇買つたものであります、栽培家は私の知つた人であります、友人が餘り高いからおやめなさいと云つた所が金があつて仕方がないから神戸の海へ投棄てると思つてそれを百箇百圓出して買つて行つたと云ふ事であります、この位價がある、五十錢位が平均相場であります、諸物價が崩落したからと云つても是等はさう下落するものでありませぬ、二月三月頃に出す苺であります一箇五十錢でさう驚くべきものでありませぬ、私は早作りの苺も岡山縣に於て餘程御注意になつて宜からうと思ふのであります、現に本年東京に出た早作りの苺は驚くべき數量であります。神戸や大阪は岡山の如き鼻先でありますから大阪神戸等の本場へ供給することが出來るのであります、この苺の早走りと云ふものは普通五月六月の生産でまだ不足を感じて居るので需要は益々增加しやうと思ふのであります。

罐詰と乾果

次に罐詰、乾果物に就て少しく述べて見たいと思ひます、罐詰問題は御承知の通り隨分旺になつて來て居りますが未だ海外へ出る事三十萬圓位にしか上つて居らぬ、如何に物價が騰貴しても昨年の如き輸出高三十萬圓下であつたかと思ふ位であります、是は未だ製法が下手である又使用される砂糖の品質も悪いのである、西洋の罐詰は棒砂糖を使ふ、次には双目其次には日本で使ふ三盆砂糖と云ふ順である、棒砂糖であるとかキャンデー糖であるとか又双目等は幾分蜜はあるが三盆に至つては大に蜜がある、蜜のあるのは優良でない、我が罐詰の外國人に氣受けの宜しくないのは其砂糖の爲か或は他に罐詰の製法が宜しくないかも知れませぬ、兎に角果物の罐詰は今日の處餘り急速に進歩して居らぬのであります、是は吾人の餘程努力を要することである、今日は蔬菜の罐詰が餘程進んで來て居るので物が不足すれば下手でも何でも買ふと云ふことになります、豌豆の輸出などは昨年一昨年に歐米等へ非常に多く出て居ります、豌豆の罐詰の如きは外國人の我國へ來て居るものとか外國船舶又は日本から出て行く船舶に非常に供給するので多くの數に上つて居るのであります、是は蔬菜問題で果物ではありませぬが斯う云ふ意味から考へて果物の罐詰も大に注意を拂ふ必要があると思ふ、少くも關東州或は西伯利、或は南洋諸島の需要は我國の殆ど占有的になつて居りますから、消費上努力すれば可能性があるだらうと思ふのであります、而も此ストロベリーの罐詰の如き餘程注意をして砂糖の改良を圖り作り方竝に罐に貼るペーパー等にも一層注意を拂つたならば水産物の蟹或は鰕の如く米國にも輸出されると思ふ、此の如く果實の罐詰も十分注意を拂ふべきもので又囑望すべきものであります。

次に乾果に至つては洵に殘念と云ふの外はないのである、葡萄と雖も到底歐米の産地に匹敵することは出來ないのは如何にも殘念で我國の葡萄は如何ともすることが出來ない、それの如く乾果に對しても亦殘念と云ふことを前提に置かなければならぬのであります、若し果物を論じて殘念なと云ふならば世界の有名な産地に比して非常に殘念なと云ふ事は總ての果物に就て言はなければならぬのであります、先刻も申し述べましたレモンはそれであります、桃それである、梨それである、苹果それである

其産額の世界一と誇り得るものが果してありませうか、寧ろ世界有名な地方に於て作られた額に及ばざるものと思ふのであります、我國の濕氣の多いと云ふ事も恨に思ふが致し方がございませぬ、其範圍に於て果物の罐詰と云ふものも今申す乾果と云ふものも實に殘念に堪へぬのであります、廣島縣下に於て熱心に無花果の乾果を造つて居らるゝ方がありまして、又愛知縣の木曾川沿岸に於て大に努力せらるゝ方もある、恐らく本縣に於てもお試しになつて居られると思ひますが、廣島縣に於ては李の乾果をお試みになつた方があつた、愛知縣に於ては之を試みて居る、葡萄は甚だ不十分であります、我國の乾果と云ふものは濕りの多い爲に乾す時に非常に皺が寄るのであります、品質さへ良ければ其方は堪ゆる事が出來る、今日に於ては需要は少うございますけれども西洋料理に干果物を使用致して居ります、現に西洋料理ばかりでございませず他の口取物や他の物の添物として我が料理にも餘程用うる傾向を生じて來て居る、併し我國の現況は糖造罐詰として之を添物にして居る、例へば杏漬であるとか李漬であると云ふものは多くは糖造品、所謂罐詰物を使つて居るが、菓子を製造するにも乾果を旺に使用するやうになつて來て居る、現に東京菓子製造會社に段々あるのであります、彼のキャラメルの森永菓子製造會社は元森永箇人でありましたが今日は株式組織になつて居る、彼處の如き其他洋菓子を造る所に於ては乾果を旺に使用して居る、葡萄、カーラント、李、杏等を用ゐて居ります、又ハイカラな家では間食と致しまして果物を出す或は菓子を出すのを乾果を用ゐる樣になつた、又洋食にも幾らか使つて居るやうな有樣であります、今日は西洋物の高いのを使つて居るが品は第二流第三流で、唯目前の收利を圖るのである、安い物も亦相當用ゆるに足るものである、品位は少し下るとも之を使用して食用に提供することは可能性である、是は確に需要の增す趨勢を示して居るのでありますから努力に依つて前途に望みを置き得るものと思ふのであります。

果樹問題の各論は是にて打切ります、今引つ括めて見まするに我果樹界の前途は洵に囑望すべきものである、在來の蜜柑其他數種の果物と云ふものも尙遲くない、植ゑて賣れないことはない需要は豐である、而して硝子室の葡萄メロンの栽培の如き有望で

又大に有利なものである、又レモンの如きも海外輸出も餘程囑望すべきものである、栗の如きも亦大に望みを囑すべきものであると云ふことを申上げて置きたい。

蔬菜需給の將來

蔬菜に就て申上げます、蔬菜と云ふものは之は單り日本ばかりでありませず殆ど東洋全體同一で尤も支那は餘程便宜な狀態にありまするが先づ似たものである、而して西洋に在りましても我日本の狀態と近い都市もあるのであります、先づ我國の狀態から云ひまするど以前に在つては最も甚だしき狀態を示して居つたのでありますが、今日交通が是だけ開けましても尙需要供給上餘程變態を示して居ると認めざるを得ないのであります、本邦の最も大なる都市數ケ所の蔬菜と云ふものは其都市に向つて附近より裕に供給されて居るのであります、東京市の如きそれであります、固より若干は他府縣より遣入つて居ります、先づ其附近より供給されて居ると見て宜しい、名古屋もそれであります、京都は御承知の通り餘程裕に供給されて居る、大阪も先づそれであると言はなければならぬ、其都市附近の地域に於て耕地があつても蔬菜を作らないと云ふ所では其附近に之を求むることが出來ない、勢ひ離れた所又大に離れた所に求むるより仕方がない、神戸然り横濱然りであります、尙岡山市の如きも決して蔬菜が裕である地方とは申されぬと思ひます、蔬菜と云ふものは特殊の人の作つて居るものであつて、一般農家の蔬菜を作るのは洵に少い、時に依つては農家自身が缺乏を愬へるものである、富山市の如き二三里先の農家の人が歸りに油揚や茄子を買うて歸へると云ふ有樣である、富山市は格別であるが恐らく岡山市も幾らかあるだらうと思ひます、蔬菜と云ふものは一般農家の中特殊な人が作ると云ふ狀態であつて甚だ妙な事になつて居るのである、一方から云へば甚だ殘念なことであります、又一方から云へば稍專業的の働きを示して居る結果である、此の蔬菜栽培と云ふものは何處らまで進展し變化し需給相伴うて行くべきものかと言ふことを將來に就て少しく論じて見たいと思ふのであります。

茲に食物問題が起つて來るのであります、日本人

と云ふものは一體何を食つて生くべき人間であるか、御馳走といへば必ず魚に定つて居る、宿屋へ行つた所で野菜を喰はさぬ、無暗に魚を食はす、招待の如きにしろ魚肉を御馳走と云ふので無暗に魚を列べる、朝から刺身に燒魚を使ふ、晝も夜も魚が附くのである、御馳走の目印は魚肉である、蔬菜は極めて擯斥されたもので、民に菜色ありと云つて菜つ葉許り食ふと死ぬと云ふ、西洋の如きは菜食を可として居るのである、乾酪さへ附けず精進料理みたやうに油でいためて居る菜食であると却て壽命が長いと云ふ位であります、私は菜食派に屬する方でなく魚肉牛肉を愛する一人でありますが、兎に角我が日本人に菜つ葉は餘程必要である、香の物に飯さへあれば結構であります、握り飯に梅干で健康は保たれる、無理に罐詰を喰ふ面倒は入らぬ、梅干や、香の物を用ひても何十日も仆れはせぬのであります、日本の食物問題の上に麵麭に菜の葉は用ひられぬと云ふ論者もありますが、麵麭に菜つ葉も亦やれぬことはない、人間と云ふものは何うでもなります、兎に角日本の食物問題の上に蔬菜の栽培は必要なものであります、此問題に就て論じますれば非常に長くなりますから是は他の人に讓つて置きます。

今後如何に食物が變化致して參りましても、吾人は此の蔬菜より蛋白質を攝らなければならぬ、又菜つ葉には纖維がある之が腸の爲に必要であるから、何うしても蔬菜は栽培しなければならぬものである、料理法に於て多少調理に改良を要するのは自然の結果である、して見れば今後食物の改革が叫ばれますれば調理の仕方に變遷を來す蔬菜利用の方法も變る又要求する種類も違つて來る現に維新前に誰が甘藍のやうな氣味の惡いものを喰ひましたか又蕃茄の如き青臭いものは喰はなかつたが今日に於ては何うしてもなければならぬものになつて居る、形狀や習慣に束縛せられないで漸次需要が變つて來て居る如何に食物が變化を來しましても蔬菜と云ふものは變らぬ唯種類が變るだけである、斯う云ふことから見れば今日我國に於て栽培して居る蔬菜は何んなものが主要なものであるか又現に這入つて來て居る外國物の有利なものは何んなものであるか　何んな變化を將來に及ぼして來るかと云ふことを摘んで申上げたいと思ふのであります、麵麭に鹽茄子は決して合はぬことはない、梅干と麵麭とも合はぬことは

ない、麵麭と梅干ば病人にもよく合ふ、今日我國で作つて居るところの蔬菜と云ふものは之を和料理にのみ用ひて居るが、和料理は今に改革さるべきものであると思ふ、此の蔬菜に就ては今日外國に於ても餘程論究されて居るので食物が多少變る事があつても蔬菜として在來用ひられて居るところの菜つ葉類或は胡瓜、茄子、隱元等は餘程尊重されて居る、併し乍ら西洋種と雖も我國の風土に適するものは續々殖ゑるに相違ない、一方我國の在來種中一般の嗜好に適せぬものは追々減りませう、斯く減りもしますから蔬菜と云ふものは依然として進んで行くだらうと思ふ、例へば大根の如き餘程擴がりませう、現に此度皇太子殿下の御來朝になつた羅馬尼の如きは歐洲戰爭の始まる年であつたと思ひますが、今後二ヶ年百法づゝ（日本の當時の爲替相場で四十圓づゝ）大根の種子を送つて呉れと大日本農會へ羅馬尼農務省から依頼して來て農會から送つて居た、その二年目の書簡を讀んで見ますると大變よく適すると云ふ事であつたが間もなく歐洲戰爭が始まつて其後何うなつたか判らぬのであります、其大根は美濃種を始め丸太い聖護院、大きい所では櫻島、練馬、細い奴は守口のやうなものを送つたのでありましたが却々好く出來た、大に奬勵すれば將來は見込みがあると云ふことでありました、是等大根の如き永年の習慣に依つて却々變らないものであります、でありますから或種のものは益々進み或種のものは作るに及ばぬが、今日強いて之を放棄するに及ばぬのである、或物は減り或物は殖ゑるのである、而して外國から這入つて來たもので將來望みがあるか無いかと云ふことを研究し以て之を求むべきであるから蔬菜園藝の將來の上に一言したいと思ふのであります。

輸入の新蔬菜

今外國から這入つて來て居るもの、中最も注目すべきものは、甘藍、葱頭、石刁柏（西洋うど）苦苣（インデーブ）花椰菜、木立花椰菜、子持甘藍、是等のものは之を流布する價値のあるものと思ひます。甘藍は今や全國によく擴つて居る、此ものは本邦の冷涼地に適する、北海道のものが最も多い、小笠原島、臺灣南部にも出來る、併し南の方で出來るものは全體の量が大きい、今は常食になつて居つて益々

有望なものである、新漬、糠漬、醤漬等萬事萬端日本化し西洋のものと思ふ人はない、葱頭も亦冷涼地に適する、併し乍ら本縣の如きもおやりになつて居ると聞いて居る、大阪府の堺方面に於て先年來栽培して居るが、北方のものはよく充實して居つて宜い、是も甘藍と相列んで本邦の重要なる輸出蔬菜である。

石刁柏(アスパラグス)は旨い旨くない變なものであると種々唱へられて居りますが既に日本化して居るのであります、少し舌が進んで來ると確に旨いものだと申すと思ひます、私共は舌が進んで居るのか旨いと思つて喰つて居る、一度喰はせて見れば必ず旨いと云ふのである、是は餘程獨活より旨い、併し獨活の方が香が強い、香は薄いがそこに味がある、利用法も鷄の添物糠味噌漬にもなる、三杯酢にもなる、茶碗蒸の添物にも用ゐ萬事萬端日本化して獨活と同じ樣に用ゐられて決して西洋臭いものでない。

苦苣(インデーブ)は川崎大森邊で大變作り出して居る、苦い所が取柄である、勿論西洋料理に適する、サラドに適して居るのみならず私は酢味噌でやります、却々旨いものです、普通の酢でも旨いが西洋酢を使へば一層結構、夕飯の如き飯の上にかけると非常に旨い、若し麵麭と喰うと尙旨い、栽培するには砂地がよく適する、蕾を捲いて置くと白芽が多くなる。次は花椰菜である　甘藍と同じく冷涼地に大に適する砂質壤土ならば尙結構です、花椰菜の需要は非常に尊重されて居る、茶碗蒸始め種々和料理の材料になる、又洋食に於ても尊重すべきものである。

次に木立花椰菜は春の高いもので花椰菜の出來る所には同じく出來るので兄弟分である、却々旨いもので和料理に頗る適する、岡山縣など最も御注意になつて御栽培になり神戸大阪或は東京へ御送りになつても品物が少くて困りつゝある現況であつて需要は益々殖ゑるものであらうと思ひます、是等は何れも御試作になつて宜からうと思ふのでございます。

此外にセルリー(塘蒿)であります、餘程好い香ひのするもので、現時一般に需要が殖ゑつゝありまして益々殖ゑるであらうと思ひます。

是等輸入品なるものは將來大に發展するものでありまして、東京市の如き夏分になると八百屋には蕃茄が出て居る、五つ一山幾らと云ふやうに賣つて居つて日本の茄子と同化して了つて居る、兎に角甘藍

葱頭を始め其他ズン〳〵新しいものが這入つて參りまして其の需要は段々殖ねつゝあるのでありますから是等を栽培して大に有望なるものと思ふのであります。

是まで往々ありますけれども兎に角栽培して居りますもので將來見込のあるものを是處に掲げて見まするとリーク。チコリー。ガルデウンの三つであります、東京或は横濱神戸若くは大阪に供給する爲に栽培する、西洋人若くは洋食を喰べる人、西洋料理店に於て少々宛使用して居るのでありますけれども多少增加は示して居りますが、未だ旺になつて居らぬのであります、是は根本から申しまするど今日の我が料理界の狀態と云ふものが西洋の物は西洋料理に適するものである、而して在來の和料理に用ひて居るのは多く洋料理に適せぬ和料理向のものであると云ふ事の爲に曩に申上げたところのもの又是處に掲げました三つの如き物は其意味に於て料理向用途が增さんのであると考へるのであります、然るに此の三者の如きも西洋臭いと云ふことになつて居るが、日本在來の料理法と同じく十分使用することが出來るのである、されば此のリークと云ふものは日本在來の葱に好く似たものであつて葱より香ひが少し高い、粘ばりして味が甚だ強い、養て減ると云ふことも在來の葱から見て少い、底に強い甘味を有つて居る、魚と養ても好く、米食に對しても用ひることが出來るのであります、又在來の葱より旨い、而も其栽培は洵に易々たるもので、日本の白芽法と同じく土掛けをすれば白根が出來るのであります、洵に無造作で本邦到る處の土地に適するものであります、既に三河の豐橋方面は初め一二の人が作つて今は餘程普及して家庭的のものにならんとして居る、是等は宣傳しなくても世人相傳へてリークが日本在來の葱より旨い又用ふる所も全く同じである、單り洋料理のみに使用するものでないのでありますから、在來の葱と共に擴めなければならぬ、即ち葱頭もあの通り擴がつて居るのでありますから、リークも亦大に傳播して需要者の尊びを受けるところのものであると思ひます。

次にチコリー、此の根は珈琲の代用をするものである、獨逸に於ては戰爭以前よりチコリーの根を珈琲に混用して居つた、珈琲より安く提供することが

出來るのであります、然れば唯一の目的は珈琲の代用であるが、實は立派な蔬菜である、而も此のものは其根は恰も獨活に近いものであります、其根をもやしに掛けますと百合の輪片のやうなものを呈しますから白いものを取つて西洋料理の酢、油胡椒其他のものを加味する即ちサラドや生菜として喰べるのに提供して居る、既に横濱附近に栽培して居る人がありますれども洵に微々たるものであります、何故に本邦で西洋料理に用ひぬか判らぬ、尤も歐羅巴に於ては獨逸の如き比較的少い、英吉利も亦少いが佛蘭西、白耳義は盛に用ひて居る、國に依つて嗜好が違ひますが本邦では殆ど用ひられて居らぬ、眞つ白で實に美しい外觀を有して居る、軟かな肉の上に苦味があります、日本の米食に對しても洵に結構なものと思ふ、而も栽培は洵に容易なものである、肥料は廐肥等を與へ土若くは塵埃の如きものを掛け合せると宜しい、是は前途に向つて嘱望すべき蔬菜であると思ふ、固より洋料理に適する。

次にガルデウンであります、是には二種類ある、一はアルチチョク、朝鮮薊と云ふ名を附けて居る、薊に似て花蕾が大きい、そして松毬のやうに重なり合うて出來て居る、小さな肉があります、此の肉を喰べるのであります、松の實を喰べるには松毬の周圍の間にある肉を取るのでありますからそれと同じく此の重なり合うたところの肉を喰べるのである、日本では此のアルチチョクと云ふ西洋の名前を取つて居る、洋料理に多少使うて居る、其の需要力は甚だ薄い、其兄弟分のガルデウンは花蕾の發育が非常に小さい、到底喰べるに堪へない、植物學上ガルデウンとアルチチョクは少しも差はない桃に毛の有ると無いと同じ以上に近い、ガルデウンは花蕾を喰べるものでない、葉柄を喰べるものである、葉に刺があります、此刺は不愉快な感じのするものである、一見薊のやうでございますが在來の薊とは肉だけが大きい、刺のある所を取り去つて筋を除きまして喰べるのであります、西洋料理には非常に濃厚な味のあるものとして尊ばれて居る、我國の歎冬と比べて非常に粘りがあり味が濃厚である、魚肉、牛肉、豚肉に合せて喰べると結構である、到底歎冬のやうにガサ〳〵したものでない、洵に粘りのみつちりしたもので恰もリークを使用すると同じであります、栽培法も洵に簡單でありまして土を寄せ薄い蕊若くは

藁切れを巻き太陽を遮つて白芽法で軟かなものを作るのも一つの方法である、でなくとも作り放しでもよく出來る、病虫害に罹ることも甚だ少い、洵に栽培の容易なものである、是も傳播普及して將來我が蔬菜界に於ける一のものとして認めらるゝものと考ふるのであります。

備荒的蔬菜

終りに我が在來のもので特に注意を拂ふ價値のあると思ふものがあります、是はチヨロギ(地蠶)であります、本縣では如何にお用ひになつて居るか御使用の程度は存じませぬが、大方稀なもので多くお用ひになつて居るまいと思ふ、チヨロギは煮豆などの時に一つの材料になる、精進料理に薯蕷を用ひる代りにする、又酢に入れる、梅酢、生姜酢などにチヨロギを漬けて喰べる、時として羹に用ひて居る人もあります、右の三つの料理に使用する方法はチヨロギの普通の方法であるが寧ろ珍品と云ふ風に用ひられて居る、是は恰も蠶の蛹のやうに節立つて出來て居るのであります、肉は脆く非常に澱粉に富んで居る、齒當りは薯蕷のやうな味がする、そして栽培も洵に容易なものである、唯習慣的に使用せぬのであります、是は何故使用せぬのかと云ふと判らぬからであります、此物は西洋料理と致しまして現に佛蘭西に於ては非常に澤山使用するやうになつた、早くから此の野菜のみは佛蘭西の常食となつて居るのである、是は春チヨロギの根を下して秋霜の降る頃之を掘つて收穫するのであります、冬季巴里の市場に於てはチヨロギを供給して居る、諸種の西洋料理に使つて居るのである、チヨロギは極く寒い所には出來難い、佛蘭西では獨逸より盛に輸入して居るのである、萊因地方の南の温暖地に產出し、國外、佛蘭西以外の國まで輸出して居る、獨逸では先づ得る事困難でないのである、西洋の人が尊重して居るのに日本に於ては之を尊重されて居らぬのは殘念であります、何故用ひないか疑はれるのでありますが、之は習慣であつて弘く使はれないのである、羹或は茶碗蒸などには餘程調和したものである　煮豆にチヨロギは無くてならないものと思ふ、又百合根を用ひる場合に此のチヨロギを用ふれば餘程面白い、又茶碗蒸に銀杏が這入つて居るが是も銀杏以上の味を有

つて居る、斯う云ふやうに種々の方面に用ひられるので今後和洋料理に有要な材料となるものであります、而も東京邊でさへ出來るものでありますから中部溫暖の地に於ては作つて宜からう、又澱粉植物でありますから食糧問題に際會して居ります今日餘程補充材料になるべきものである、而も其生産量は多いものでありますから、此澱粉植物は備荒的に作ると云ふ意味に於ても、亦喰ひ馴らす習慣を與へると云ふ上に於ても餘程價値あると思ふのであります。

蔬菜と云ふものゝ前途は我が在來作つて居るところのものを尙之を盛に作ると云ふことも必要であるし、竝に支那から這入つて來た白菜等の如き外國輸入のものにして適種であり我が風土の上に適するものは益々之を作ると云ふ必要がある、又今は甚だ少いけれども之を作つて宜しいと考へるものは進んで作らなければならぬ、曩に申したチヨロギのやうな在來のもので殆ど閑却されて居るものも之を作り出すと云ふことは大に必要である、況や又掛け合せたものを選擇することも必要である、既に苺や、大根の如き種子を選擇して新種を作製すると云ふ必要を促して居るのである、斯う云ふやうに淘汰交配によつて得らるゝ事を蔬菜の上にまだ多く意を注がれて居らないのでありますから、餘程注意を拂ひまして蔬菜の前途に對さなければならぬ、又食物の將來に就て吾人は大に努力する必要があるだらうと思ふのであります。

花卉の前途

次に花卉問題に就て申上げたいと存じます、此の花卉なるものは種々の目的に於て栽培されて居るのであります、或は百合の如き草のやうなものがあり或は夾竹桃の如き灌木性のものがある、或は松や扁柏や楓のやうな喬材となすべきものがある、觀る方から言へば種々あります、花を觀る場合もあれば枝の向き或は葉を觀る場合もある、或は庭に植ゑる、或は花壇に於て觀る、鉢に取つて見る事もある、或は蔦の如き被覆するもの、或は隧道のやうな形にして其の覆ひ冠さつた所を洞のやうな狀態になさしめてそれを眺める、非觀賞もあれば直接觀賞もある、或は裝飾として觀賞するものもある、又之を伐つて以て室內で眺める、又盛る或は挿す或は敷く等の用

に供する、之を要するに吾人の眼を慰ましむるもの即ち娯樂觀賞の用に供するものである、尙進んでは他の材料の配合によつて、若くは建造物の配合によつて其處に美を現さしむると云ふこともあります、我國の現在から見れば花卉に於て花と云ふものは先づ挿すのが主なものである、所謂生花である、併し近年になりまして盛花等にして卓上に飾るやうでありますけれども是は僅に一部の用途を示して居るだけであります、一部の人の觀賞であります、全體から見れば尙ほ挿花を以て花の觀賞の主なるものとされて居るのである、此の花なるものは能く人の言ふことでありますが、社會的、總ての政治的の觀察から見て花の進歩は非常に人智の進歩を證明するものであると云はれて居る、彼のチャンバーレン氏は花の進歩は亡國を示すものであると云つて居る、國外へ蔬菜食物を輸出し國民は花を觀賞して居ると云ふのである、是は政治上の意味から戒めたもので一面の觀察であります、他面に於ては人智の進歩を證明するものである、此のチャンバーレン氏の説は實に反面の觀察であります、諸君も御承知の如く西洋の人を招く上に於て一番の御馳走は食ひ物でないのであります、所謂肉であるとか魚であるとか野菜であるとか口に上すものでない、口の方から申すと酒の類或は水物もありますが、如何に御馳走を列べましても食ふものは實に知れたものである、寧ろ飲み物食ひ物より十倍數十倍の金を費すものは花であります。西洋の狀態に於ては茲に十圓の料理があると致しましたならば酒が二倍三倍するは當然である、而して花は之の十倍どころではない花なるものは高尙な御馳走で又最も其處を美化するものである、又鄭重高尙にして飲食の精神をも發揮して居るものである、今の如くではチャンバーレン氏の嘆息した意味も首肯されるのである、外國に於て御馳走すると云ふ意味の大部は花であるのであります。

文化と切花

茲に於て文化が進み人智が進み生活の度が進んで行くに隨つて花問題は益々向上發展すべきものであることは自然の趨勢である、曾に遠州流や池の坊などゝひねくつてゐる許りでなく、眞に天然の花の美を發露せしむることに餘程進んで參つて居るのである、亞米利加の百科全書を讀みますと切花（カット

フラワー）の進歩は國の標準である、切花の消費高は其國の富力、智力の尺度であると書いてある、必ずしも之を以て唯一の標準とはなりませぬが、是も一の見方である、假令ば砂糖を論ずるものは砂糖を澤山甜める國は生活の度が高い、其國の富を示して居る標準であると申します、花は其砂糖以上に無くてはならぬものではございませぬが、生活向上の上に必ず必要である、我が日本の將來を見越して花の問題には餘程努めなければならぬと思ふ、即ち果實としてメロンを喰べる、葡萄を喰べるとか上等の果物を喰べると云ふだけでは滿足出來ない、人間の慾と云ふものは眼、口、耳と種々な機關から樂しみを求めなければならぬのであります、唯口ばかりで滿足出來ぬ、耳も音樂を要求することになりますので、何うしても人間の進歩と云ふものは花の要求に向つて進むことは明かであります、今日は挿花、盛花、其他花の利用はありますけれども尚大に向上し得るものとの論點に向つて望みを囑して行かなければならぬと存じます、さうして花の分け方は何うなつて居るか、私は之を五つに分けたいと思ひます。

一、挿　二、鉢植　三、壇床
四、庭樹　五、造園

挿すと云ふのは即ち生けるのであります、日本の在來から云へば其の流派に依つて種々やつて居る、又唯慰みに一輪挿と稱するものもあります、挿方は是等も含んで居るのであります、一輪挿と申すものは西洋流から出たので慰みが多いのであります、是と同時に盛方であります、盛は之を籠に盛る、或は鉢に盛る、或は筒のやうなものに盛ることもある、而も此の卓の上にはちか盛り式の花と稱して花の蕾の附いたもの、枝物、蔓樣のものを食卓の上に置く、又部屋の飾りにもする、或は廊下、外廊、露臺に挿花としてそこに掛けるとか、釣り下げるとか、掛花にする、匍匐して居る或は懸垂すると云ふやうに種々の事に用ひて居る、近來名古屋、大阪、恐らく此の岡山邊りにもございませうが、果物を盛る事が餘程流行して來た、挿花の中へ果物を挿入するものがあるやうであります、總てさう云ふやうに切花は利用されるのであります、挿すと云ふには先づ栽培しなければならぬ、栽培するには取りも直さず花圃が必要である、又葉物にありましては葉蘭であるとか

萬年青であるとか、萬兩千兩或は正木、柏槇、猫柳と云ふやうな種々の葉物の植物も培養致しまして之を直に伐つて持つて來るとか、或は溫室に入れて早咲かせにして持つて來るとか致します、是は今日我國に於ては餘程低い程度にありますが、前に申上げた挿花問題は餘程進歩して居るやうでありますから重ねて申上げる必要はなからうと思ひます。

盆栽の新趣向

其次は鉢植、所謂盆栽です、本邦の盆栽と云ふものは餘程特殊なもので最も丹誠を凝して居る、世界に比較するものがない、本邦人にして始めて之を爲し得るものである、今では外國へ餘程輸出して居るのである、最も病蟲が這入つて植物檢査が難しくなつて居りますが、戰後何うなるかと云へば尚益々歐米へ行くことは疑ひを容れぬのである、然るに本邦の盆栽培養は特殊のもので素人では出來ない、捻ぢ曲げたり、芽を摘んだり洵に巧妙に出來て居る、外國に於てはヒネくる、最も雅があると云ふので久しきに亘り持て囃され、今日に於ては中以下の詰らぬものまで輸出されて居るが數年ならずして枯れる、是に對し覺悟の前で持つて行くのである、然るに是は素人では出來難い、固より習慣もあり練熟を要することは當然の事である、自己の生活の度が進むと共に盆栽などの趣味が擴まりまして購買力が餘程高まつて來て居るのである、即ち需要が盛であるのである、前途を卜すれば益々盆栽の需要は增加すべきものであるから生産を進めなければならぬと思ふ、又我が國人の發展と致しまして支那方面、滿洲邊西伯利等に伸びて來て居ります、此の方面へも盆栽の輸出を促して居ります、盆栽は既に本土のみならず、關東州方面或は西伯利の如き邦人の居る所へは進展し行くべきものであると考へる、盆栽の類で盆景、或は盆石など似たものがある、是は盆栽の變化物であります、それに石を据ゑる一方に砂を置く水を湛へる、破れた小さな船がある、そこに魚を釣る人がをる、葦が生ねてあるとか頗る雅味に富んで居る、所謂庭園を縮小したものであります、盆栽に變化を與へて自然の狀態を縮めて理想化したものであります、故に是等も盆栽と共に漸次發展すべきものであらうと思ふ、現に盛花として食卓に用ふるのに東京に於ては盆栽とも附かず盆景とも附かず實に美はし

い趣味のあるものを作つて居ります、假令へば冬ならば砂利の横の方に水仙を植ゑるとか、盆栽も挿花に結び附けて現れて來るものであらうと思ふのであります、本邦の盆栽は一面の見方であります、即ち前から見るやうになつて後、左右には雅味がない、前面に全力を集注して居る、是に對し西洋の盆栽は八方睨みで見處は變りがない、前景後景少しも變化がない、西洋人は圓い卵作りにして何處からでも睨まれるやうにして居る、近頃に於ては我が盆栽も西洋化して、東京、横濱、神戸等に於ては西洋式の盆栽を造つて居る、日本物は前から見るのである茲に其特色があるのであります、日本座敷の床といふものは少し凹んであつて後左右から見る必要がない、稍大きな家には食堂を有つて居りますが、何れも前睨みでは困る、お客さんの方に對して見せるならば、其裏の人は全くお尻を見て居ることになる、故に用途如何に依つて此盆栽も變化しなければならぬと思ふのであります、我が在來の六疊、八疊、十疊の間なり縁側と云ふものは固より一方睨みで其美を發揮して居つたのであります、現に德川氏の時分、千代田の城に於て廊下の飾り、廣間の飾りにして今に殘つて居る、東京府の園藝學校に三代將軍手植の松と云ふのがある、二方睨みで三蓋松の式であります、細長く前面後面から見るやうになつて居る、是は德川氏時代の大廣間、廊下と云ふものゝ爲に必要であつたのであらうが、近來は西洋風のものを作り出すことを要求されて居るし又國外の需要も多くなつて來て居るのでありますから此方に注意を拂つて作ると云ふことは盆栽界に大變必要なことであると思ふのであります。

花壇の改良

第三壇床、即ち床であります、種々の花物を地床に作るのであります、そして切りもし挿しもすれば其處で眺めもする、是は在來あつたことであります、菊とか其他數品を庭の中、庭に近い所に作つて觀賞に供して居る、近來は公園或は遊園に於ても此床があつて種々の物を植ゑて居る、方形のものもあれば楕圓形もあり、八角形或は木の葉の樣な形の床もある、又西洋の植方或は方法を採つて、中央に卓を置

き周圍を眺める、又色の配合をして緣を紫にして中に白或は白紫桃色の混植をする、或は色物で緣を取るとか若くは綠葉を以てするとか云ふやうにする、又花壇も種々の樣に作りなされて居るのである、芝生の上に花壇を置くと云ふことも其の芝の色と配合する、場所如何によりては土の上に置くとか、如何なる位置を取るか、正面に置く、或は側面に置く、或は樹下に置く、或は草を以て繞らすとか、裝飾と云ふことに就て考究されつゝあります、日本の花壇は頗る幼稚なものでありますが前途餘程進むべきものであります、本邦在來の花壇は夙に簡單なるものでありますが、此の花壇の形狀配置及び平素の設備、前途の改良は甚だ大なるものであらうと思ふのであります、之が發展しまするならば之に伴れて花物の仕立方も大に改良しなければならぬと思ふ、殊に庭や公園の花壇が發達致して來ましたならば花壇と云ふものゝ上から早作りの花を出すと云ふ事も勢ひ餘儀なくされるであらうと思ひます、室咲ものにしても四月にはまだ霜が降りますから注意を要する、簀の子を掛けて霜に當らぬやうにするとか公園遊園地等に保護の方法を執らなければならぬと云ふことは決して遠き將來の問題でなからうと思ふ、殊に市又は町の都市計畫問題が進んで參つたならば公園、遊園、遊戲場の問題が起る、隨つて花園問題が伴つて來るのでありまして、花壇問題は決して今日の程度に止まるものでなく近き將來に於て考究される、即ち根本の花卉の栽培に影響するものであると考へらるゝのであります。

庭樹と造園

次に庭樹であります、是は御承知の如く庭園に植わるところの樹でありまして庭園は私園である、公なれば公園である、要するに私園に植わるところのものであります、都市或は町村の道路に植ゑるものは並木である、庭園ならば喬木もあれば灌木もあり又草花もある、公園にありましても同樣でありますが、並木にありましては多く喬木であります、又近來は果物を植ゑる所もあります、最も進化したものは今から約五十年の歷史有つて發達して居ります、獨逸に於ては苹果李或は櫻實を植ゑて居る、佛蘭西に於ても果樹を植ゑて居ります、之は主として櫻桃でありますが中には苹果を植ゑて居ります、日本で

は澁柿を植ゑて居ります、之は人が取つて喰はぬ爲である、西洋では直ぐ取つて喰へる苹果を植ゑて居る、日本に於ては到底澁くて喰へぬ乾果にするものを植ゑて作つて居るのであります、要するに柿と云ふものは山から野から取つて來て植ゑるものである、天然の植物で一方培養植物でありますから柿は庭園或は都市町村の並木に植ゑることは肝要であると思ひます。

次に御話し致す造園は、植物を用ひる事、今の庭樹を用ひると云ふ事で總て了つて居ることであります、隨つて發達すべきものであります、山野自然の物を好んで取る、高山植物、或は岩石を取つて据ゑると云ふことは頗る興味のあるもので、場所に依り人に依つて應用さるゝものであります、造園の目的は常綠樹、落葉樹、花を見る物、幹を見る物を混じ、家に近い所家に遠い所、或は四季に關係ある木を植ゑる、或は明るい所暗い所を作らねばならぬ、蓋し我國のは箱庭的私園である、多くは暗く幽邃であるが、明暗があつてこそ幽邃の興があるのである、變化は造園の目的で最も大切なるものである、幽邃を主とするならば常綠樹を植ゑる、明暗が主ならば群植する、或物は葉が落ちる、或物は落ちない、或物は金色のもの或物は綠濃き銀色のもの、或物は枝の曲つたもの、或は直幹物を用ひる、其植物の配置に依つて變化せざるを得ないことになるのであります。

造園の眞意

次に造園であります、是は前回略申上げましたが、此問題に就て都市に御住居ならぬ方は造園問題を聽いて餘程價値が尠いと云ふ感じがある農業問題でなくして園藝と云ふものは都市問題であると云ふ御感じもあると思ふのでありますが、私は決してさうは思はぬのである、農業にして裝飾的將た觀賞的のものが即ち園藝である、園藝の中に於て始めて造園を論述すべきものである、若し農業に從事して居る御同座の諸君がそれであるとしたならば此の御觀念をお有ちになることが必要であるのみならず社會的にも之を十分御諒承置きあつて宜からうと思ふのであります、田園に住んで居るものは此の造園問題の價値は全く無い都市に住んで居れば價値が高い、都市計畫問題の如き殆ど田園生活者は顧みるに當らぬや

うでありますが、決して然らざるものと思ふ、現に岡山へ參つて見まするに、三四年足を入れなかつたのでありますが宿屋の庭樹の如き非常に弱つて居るのである、これは御同樣注意を拂はなければならぬ問題であらうと思ひます、是は煤煙の影響であらうと思ひます、常綠樹の椎、モチの類、躑躅の類は煙害が薄い、之に反し針葉樹の檜、杉などは非常に害を受くるのである、宿屋に在る杉や檜の如き非常に弱つて綠色がない、青色がない狀態である、是は逐年石炭に依つて——亞硫酸瓦斯の影響に依つて抵抗力が弱り植物を次第に弱らしむるものであらうと思ひます、此事は單り岡山の問題のみならず東京の如き大阪市の如き識者間に於て非常に憂ひて居る問題である、都市計畫の上から工場區の設定と云ふことは御案內の如く緊急重要なる問題として論議されて居る次第であります。

顧みて造園の事でありますが、國の進步から見て花が進步すると云ふことは奢侈を尊ぶと云ふ社會的現象となるのと同意味で、消極的の觀方をすれば造庭の價値は薄いと存じますけれども、社會の進步と共に造園を誘ふ事は已むないものであると云ふ方から見て是非必要缺ぐべからざるものと見るならば、造園も亦園藝問題として注意を拂ふべき價値があると思ふのであります、今は物價が甚だ騰貴して居りまして建築にせよ、又庭造りにせよ非常に金が要つて居るのであります、現に神戶又は彼の附近に於ての庭園の如きは如何に多額を要して築造されて居るかと云ふことは御承知になつて居るだらうと思ひます、姑く人名は申しませぬが須磨方面の庭は昨年築造半であつたが廿六萬圓要しつゝあると云ふことであつたが、私は之を見て決して廿六萬圓は高いと思はぬ、輪廓に非常に金を拂つて居る、今日の物價から見て小建造物でも十萬圓は要する、邸宅で數十萬圓以上のものは幾らもあるのですから、庭がそれに對し十分の一以下であらう筈がない、庭といふものは建築の進むと共に缺ぐべからざるものである、公園が人間の衛生から見て娛樂の上から都市生活の人に有要缺ぐべからざるものである如く、此の造庭の爲に金を投ずと云ふことは避くべからざる必要の事であると思ふのであります。

公園と私園

造園なるものは是迄單に植木師或は庭師と云ふものゝ手に依つて爲されて居つたのであります、之は往昔からの慣行でありまして建築上の設計計畫にはなかつたのであるが今日は建築技師大工の仕事となつた。今より二十年前には建築の仕事でないと思はれて居たが今日では大工の設計計畫の出來得る知識あるものに依つて始めて出來るものであると云ふことになつて參つたのであります、造園は最早植木屋の手を離れてあるのである、洋館に對する應用、都市の建造物、或は公園、土木其他の關係に至るまで計畫すべきものでありまして、餘程智力を要するのである、即ち自動車が往來するならば道巾を擴うする、或は街路樹を植ゑると云ふことになる、斯く觀察するならば造園問題は餘程有要にして之に從ふ人と云ふものは興味を有つて考究すると云ふことになるのであります、私は玆に都市計畫と云ふ事に就て少しお話して公園と云ふものゝ上から申上げて置きたいと思ひます。

一體、庭或は園と云ふものは二つの名稱を與へ得る、一つは公園、一つは私園である、吾人住宅のあるところには庭即ち園がある、吾人は之を庭園と稱して居る、又公衆享樂の地は即ち公園である、而して都市計畫に於て庭を一番先になすものかと云へば固より最先になすものでない、公園なるものは最先になすものでございませぬけれども、公園と云ふものは曩にも少し申上げましたやうに建築として又土木の仕事として都市計畫をなす上に於て之に關聯して公園なるものゝ設備を考へなければならぬ、都市が發達し人口が增加するに隨つて種々の計畫を要するのである、岡山市の如き今日の狀態で以て滿足し得べきものであるか何うか、昔の武家屋敷も今日の如く街家と變じて居る次第である、時代が變れば物が變るのである、今後に於ても自動車と云ふものは交通上非常に利便をなすものでありますから岡山市も決して今日の狀態で卅年五十年を予することは出來ないのである、大は大、小は小の都市として變遷すべきものである、人間の衞生上又娛樂の設備をしなければならぬので公園は最も必要である、今日のやうに家に庭を有つて居ると云つて安閑として居らるべきでない、住宅の如き、岡山市は何うか存じま

せぬが、東京市の如き既に攻附けられて居る問題である、而も無制限に平面的に擴がるものでなく成るべく立體的に上へ行かなければならぬのであるが地盤が弱いから地震などに耐へ得るやう其建造方法に就ても研究を要するのである、横へ擴がると云ふことは土地の不經濟であります。都市計畫問題は今日政府の指定して居るところの六大都市のみの問題でない、既に長崎市の如きは六大都市の計畫に基いて設計を立て、我々同窓の人が其都市計畫の技術員になつて赴任された次第であります、都市の設備の上に於て從來公園と云ふものは疎んぜられて居つたのでありますが西洋に於ては今日は都市計畫の中の一大要區となつて居るのであります、日本の過渡期に於ては無論之を等閑に附せらるゝでありませうが前途を見越すならば公園問題は餘程重要視さるべきものであります、都市計畫の上に於て土地の買收等は思ひ切つてやつて其位置を決定せねばならぬ、假令ば後樂園の如きもさうであります、岡山市二十年三十年の後を見越さねばならぬ、人口は今日の儘でないのでありますから餘程雄大なる考へを以て長久の策を樹てゝ置かねば、岡山市は居住地として健全に發達するものでないと云ふことを一例として申上げて置きます。

プルバート式公園

今日都市計畫には公園論が主となつて居りますが、公園の外にプルバート、廣道或は大廣道と唱へるものがある、プルバートは佛蘭西の要塞地帶跡の廣場ぢいふのを直譯したものであります、東京で云へば銀座通り、京都で云へば四條通りと云ふやうな場所をプルバートと稱して居る、それが固有名詞となつたのである、都市計畫に於て公園々々と騒がるゝに就て公園は廣い意味に於てプルバート式と云ふことになつた、此の都市計畫に就て最近四五年間に見るべき設備を爲したのは亞米利加である、亞米利加も歐羅巴の戰亂を受けて混雜し最近年には思ふやうに出來なかつたがアノ通り戰爭によりて巨大の富をなし又軍隊を送つたと云ふ丈で國内はさう騒いだと云ふ譯でないから種々の計畫を妨げなかつた爲に種々の仕事が旺に行はれて居ります、亞米利加で最も注意されて居るのはカンサス州である、日本の内務省の都市計畫に就ても此のカンサスシチー

の計畫を調査研究して居るので著述にも現れて居るのであります、カンサスシチーでは此のブルバート式を採つて居る、新聞雜誌等でお目に留まつて居ることゝ存じますが、ブルバートシステムと云ふものは公園を市内或は郊外に置くと云ふことでなく、道其ものを公園にするものである、頗る廣い道を設けまして其兩側を二重式にして並木を植ゑ、さうして歩道を設けるのである、歩道を歩いて居れば即ち公園を行く如き感じがするのである、巴里のブルバートの如きは廣いものではない、唯巴里市内として廣いのであります、カンサス州の計畫は非常に廣い道を置いて居ります、中央を自動車、其左右を馬車道、車道を置き而して兩側に祐に歩道を殘す、其歩道に近いところに二重式に並木を植ゑて居る、此處を歩くと公園の廣場を歩いて居るやうな感じを與へる、而もカンサスシチーのは中央を非常に長くしズツと道を貫通せしめて居るので、之を往來すると公園を歩いて居る如くで廣場が公園即ち道路が公園となつて居るのである、又カンサスシチーでは大公園の外に小公園を幾つも造つて居る、さうして大小公園を連絡して自動車車馬が通ずるやうになつて居る、ところが日本の公園と云ふものは唯逍遙する區である、上野公園の如き動物園はありますけれども例外でありまして、先づ逍遙し杖を曳くべきものである、全然散歩する所に設けてあるのである、併し公園は將來左樣なものではない、種々の設備をせなければならぬ、夏季になれば水泳場の如きも設備する、水道の水に依つて男の游泳する所女の游泳する場所を設けなければならぬ、又庭球、野球、クリケットであるとかそれ等の遊戲場がなければならぬ、特に體操場がなければならぬ、歐米の都市に於ては皆體操場の設備がある、大人のものも必要であれば小兒に對する設備もなければならぬ、又細民區域に接して居るところならば細民の爲に便宜子守を養成する場所も相當の設備をしなければならぬ、或は又郊外に於ては土地の高くなつて居るやうな場所、森林が出來ると云ふならば數里離れたところでも交通の設備をして所謂森林公園を造る必要がある、或は其近傍に名勝古蹟があるならば之に向つて交通機關を滑かにして容易に其處を觀覽し若くば逍遙し得らるゝやうにせねばならぬ、都市計畫としては土木上の設備の良否竝に家屋の構造、諸種の設備等合せて改良

進歩を要すべきものであることは言を俟たぬのであります。

田園都市生活

是は既に御讀みになつた方もあらうと思ひますが、内務省で出版した「ガーデンシチー」と云ふ本があります、何と譯して居りましたか、「田園都市」と云つて居ると思ひます、確か博文館から出版されて居ります、是は英吉利のレツチウオルス田園都市の著述を譯したものであります、それに都市計畫の大部分が現してあります、獨逸邊では所謂其の都會へ郊外から通ふそこには菜園あり花園がある、都會に住んで居つては衛生上宜しくないのでありますから田園的生活をして工場などへ通ふ、一都市に向ふ汽車は幾らもあつて三十分毎位に出る、既に東京邊でも澁谷の側の駒澤に田園都市を作ると云ふ〳〵で澁澤子外幾名かゞ株式組織で一百町歩の土地を多摩川沿岸に求め理想の田園都市を作つて都會生活の人に貸與しやうと云ふので土地を買收しましたが家屋の設備はまだ出來て居らぬやうでありますが、將に行はれんとしつゝあるのであります、是等も餘程衛生上に關係がある、英吉利の如きは彼のアロットメントの設備が出來て居る、日本にも既に之を採つて居ります、之を譯して見まするど土地貸與で、大地主の有つて居る土地を國が買ひ、一般の國民に貸與する、アロットメントの設備で、即ち國が土地を買取つて與へるど云ふ法律を設けてやつて居るのであります、然るに人間が次第に增加して參りますから此のアロットメントシステムも公園に應用しなければならぬと云ふことに及んで來たのであります、英吉利のジョージ、ガッドバリーと云ふ人が今から五年前千九百十五年に都市計畫に就ての著述があります、此の著述の中に我が内務省に於ても飜譯されて居るレッチウオルスの田園都市計畫をも揭げ、如何に此の都市計畫と云ふ事柄は土木、建築及び田園相寄つて以て人生の上に有益なる結果を與へ居るかと云ふことを現したものであります、之は表になつて居りますから御參考に供することに致します。

レッチウオルス町（千九百十二年）

	出生千人に付	死亡千人に付
プルンビル	五五、〇	四、八

レッチウオルス	五〇、六	六、一
ハムステッド	六二、〇	九、八
プルヌマウス	七〇、〇	九、九
レビシャム	六二、〇	一〇、〇
ハムマースミス	九〇、〇	一三、一
ロンドン	一〇一、〇	一三、六

此のプルンビルは英吉利に於ても都市計畫の最も理想的に行はれて居る町で、倫敦に於て千人に對し死亡が十三人六分であるのに死亡率は五人以下四人八分である、東京では確か十四人以上十六人であつたと思ひます、倫敦は生れることも盛に生れるが死ぬ方が非常に多い、又同じ著述の上に統計を取つて居りますが、之は男兒と女兒の目方と身長である。

目方(英斤、一英斤約百廿匁)

プルンビル	六才	八才	十才	十二才
男兒	四五、〇	五二、九	六一、六	七一、八
女兒	三九、〇	四七、八	五六、一	六三、二
セント、パルソロヌースワールド				
男兒	四三、〇	五〇、三	六二、一	七四、一
女兒	三九、四	四五、六	五三、九	六五、七

身長(吋、一吋は一寸強)

プルンビル	六才	八才	十才	十二才
男兒	四四、一	四八、三	五一、九	五四、八
女兒	四四、九	四六、二	四九、六	五二、三
セント、パルソロヌースワールド				
男兒	四四、二	四八、六	五二、一	五一、〇
女兒	四一、七	四四、八	四八、一	五三、一

プルンビルは改善された町、セント、パルソロヌースワールドは都市計畫を行つて居ない町である、是に由つて觀れば改良された町に比して改良されて居らぬ町の子供の目方及び身長は共に劣つて居るので、如何に衞生上體育の上に影響があるかと云ふことが此表に出て居るのを御參考に申上げたのであります餘程國家の上から都市計畫、田園都市なぞゝ云ふものは重要なものであると云ふことを十分證明して居るのであります。

結論

茲に大體の話を打切ましして結論として昨日來申も上げましたものに就て一言致したいと思ひます、前

來申上げましたやうに我が園藝の將來と云ふものは吾々其道に居るもの丶我田引水でありませずして、生活問題と共に食糧問題と云ふものから見て實に必要なことで、此内蔬菜と云ふものは最も大切な部分を占めて居るのであります、此の蔬菜の將來に對する進展に就ては若干進んで居りますが。未だ十分進んで居らぬと思ひます、日本の蔬菜は改良されて餘程優良なものが出來て居るのでありますけれども尚改良進歩の餘地あるものと思ふのであります。

果實に就きましては贅澤品の如く思はれまするが果物は人生に必要なものであります、果物は榮養物として人生を保つ上に必要であつて決して奢侈のみのものでありませぬ、生活が進み人文が進むに隨つて良き物を求むることになるのでありまして是は止めんとして止むべからざるものであります、園藝としての果實は、今日の日本の程度はまだ低い向上發展の餘地は十分ありまするから吾人は大に努めんければならぬものであります。

花卉は前にも申上げました如く世運を共に進むべきものである、又人間の文化の上に大に影響があります、吾人吉事に於て凶事に於て花を用ひることは東西一致して居る點である、慶びに悲みに花が代表すると云ふことは人間の自然であります、斯う云ふ意味から見て決して奢侈でない、必需缺くべからざるものである、一輪の花の優美なる、茶道の雅味ある、共に進歩發展しなければならぬものであると申して宜いと思ひます、此意味から申せば日本の茶道の如きにせよ、花道の如きにせよ花を用ひねばならぬのである、如何に生活狀態が變化致しましても花の要求は縱、横、前後に向つて餘程變化の要求が强くなりつ丶あるものでありまして、之に向つての供給は切に大なるものがあると思ふのであります。

造園の問題であります、是は曩に都市計畫の事を申上げる位の事でありまして人間が此の植物を樂しみ天然の美を樂しみ或は人工物を置き建造物を要する若くは何等建造物なきに拘らず天然美を幾分人造化して夫で大なる滿足と愉快を受けて居るのであります、人の生活向上は公にも私にも非常に必要である、此進運は逐年來るものと思ふのである、是等を綜合して見れば園藝の問題は農業問題の内に於て奬勵し裝飾たり娯樂たりと云ふ方から存して居るのであります、是等は餘程世運の開展に努めなければな

らぬ、而も國の上から致しまして生活の上に或は人間の頭を美化する上に、自然を樂しむ、自然化すると云ふ上にも大に影響することでありますから、願はくば諸君それを御考へあり御留意下されて社會の一員として此上に御考慮下さる事が出來ましたならば非常に仕合せと思ふのでございます。